

# 和歌山県立医科大学附属病院 病理診断科

## 当科の特徴

現在、医療現場における病理医の役割は年々増し、疾患の確定診断のみならず、分子標的薬の適応に関するコンパニオン診断など治療に直結する事項など、今や病理診断無しには臨床は成り立たない時代に入っています。そうした背景の中で、人体病理学は、病理診断科として内科や外科などと同等に臨床診療科の一員へと変貌しました。

病理診断科では、病理学総論的・各論的知識、最新の分子病理学的手法、病理診断に必要な臨床的知識を学ぶことにより、実践的で論理的な病理診断法の習得に主眼を置き、若い先生方が病理医としてより早く自立できるような魅力的な病理専門医および細胞診専門医の研修プログラムを組んでいます。病理診断学の中の専門性についても、当初は偏った臓器ではなく、全身の幅広い分野の病理診断を経験していただき、その中から各専攻医の先生が興味を持たれた分野を専門にされるよう指導を行っています。また、同時に大学院

博士課程に進むなど専攻医の希望にも柔軟に対応できる複数のプログラムを用意しています。

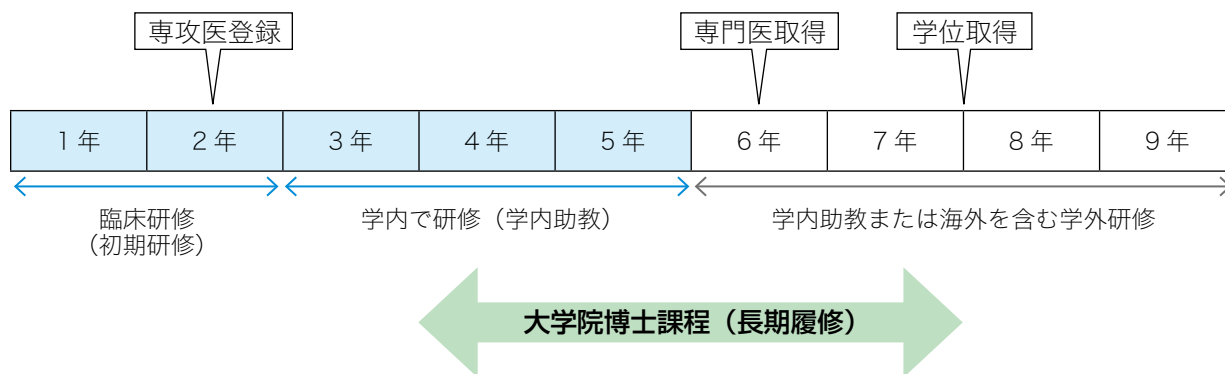
具体的には、専門医と1対1の指導の下、組織診、細胞診、病理解剖における病理診断のための観察法の基礎や基本的診断法および診断に重要な染色法や分子病理学的手法で学びます。



### ローテーション例

### 一般枠コース

※ □ は学内研修

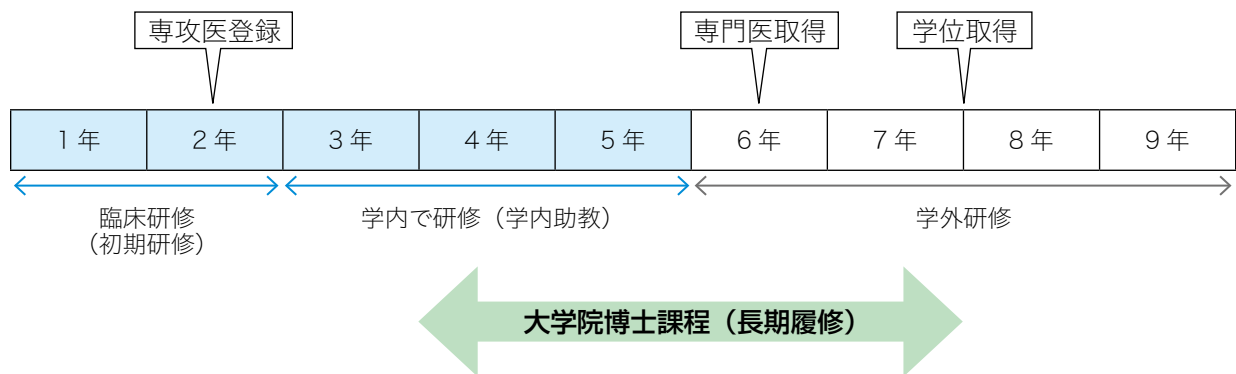


- 1) 一般枠コースは、基本的には、専門医を取得する5年目までは基幹施設である和歌山県立医科大学附属病院で研修を行います。ただし、専攻医の希望によっては県内外の連携施設での研修も可能です。
- 2) 専門医取得後は、専攻医の希望により、大学内での研修、大学院、関連病院への派遣、希望とする疾患を専門とする県外あるいは海外への施設での研修等、様々な選択が可能です。
- 3) 大学院は随時入学可能で、入学後4年間で学位を取得することを目指します。その際の研究テーマは専攻医が希望する疾患に関係するものとなります。

## ローテーション例

## 県民医療枠コース

※ □ は学内研修

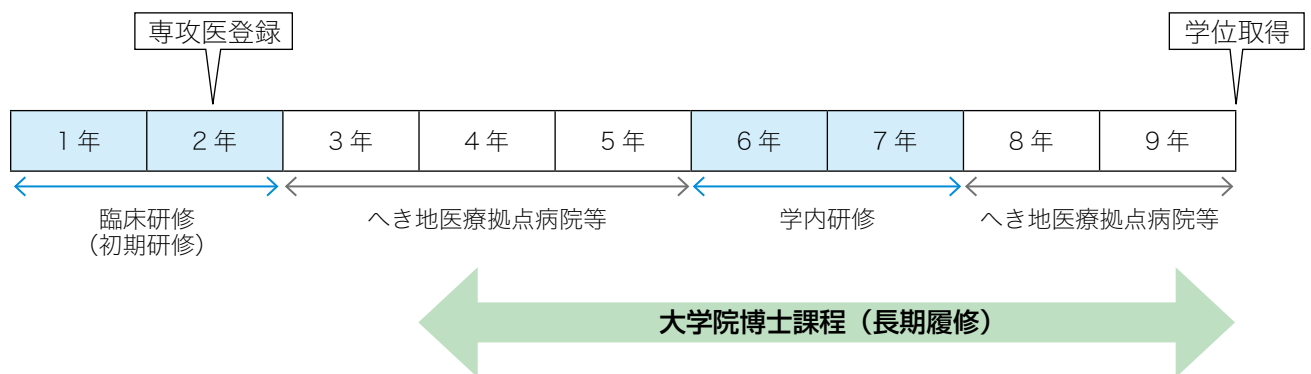


- 1) 県民医療枠コースは、基本的には一般枠コース同様で、大きな違いはありません。ただし、大学が決めた県民医療枠コースの枠組みの中で研修を行うことになります。
- 2) すなわち、専門医を取得する5年目までは基幹施設である和歌山県立医科大学附属病院で研修を行います。義務年限終了後は、専攻医の希望により、大学内での研修、大学院、関連病院への派遣、希望とする疾患を専門とする県外あるいは海外への施設での研修等、様々な選択が可能です。

## ローテーション例

## 地域医療枠コース

※ □ は学内研修



地域医療枠コースでは、臨床研修（初期研修）の後、3年～5年目および8～9年目の期間はへき地医療拠点病院等で研修を行う必要があります。へき地医療拠点病院には病理専門医が不在のため、病理診断学の研修を行うことは厳しい状況にあります。しかしながら、へき地医療拠点病院での研修期間中は、病理診断に必要な臨床的知識を学んでいただき、6～7年目および10年目以降の大学での研修を集中的に行うことになります。なお、病理専門医と細胞診専門医は11年目に取得予定となっています。

## 研修目標

本研修プログラムは、専攻医の先生方が、病理診断（組織診、細胞診、病理解剖）を行うにあたって、

- ① 疾患の概念、病因・病態などの病理総論的知識
- ② 各疾患を確定するための病理各論的知識
- ③ それらに科学的根拠を与える分子病理学的手法
- ④ 最新の病理学的知見
- ⑤ 病理診断に必要な臨床的知識

を理解することにより、実践的で論理的な病理診断法を習得し、より早く自立した病理医となることを第一の目標としています。

## 教授からのメッセージ



### 村田 晋一 教授

現在、医療現場における病理医の役割は年々増し、疾患の確定診断のみならず、分子標的薬の適応に関するコンパニオン診断など治療に直結する事項など

臨床各科から病理への要望は近年飛躍的に増加しています。今や病理診断無しには臨床は成り立たない時代に入っています。すなわち、病理医は、内科医や外科医の先生方と同等に臨床医の一員となり、医療現場のみならず社会においても、より大きな役割や責任を求められる立場になっています。

一方で、日本の病理学は現在、病理医不足という大きな問題に直面しています。和歌山県も例外ではなく、多くの市中病院から常勤病理医の派遣を依頼されているにも関わらず、その期待に応えられない状態です。そこで、現在、和歌山県立医科大学の病理診断科では、若手病理医の育成に最も力を入れています。

和歌山県立医科大学の病理診断科では病理専門医と細胞診専門医の取得を目指し、実践的で論理

## 経験目標

1 年目；病理専門医と一対一の指導の下で

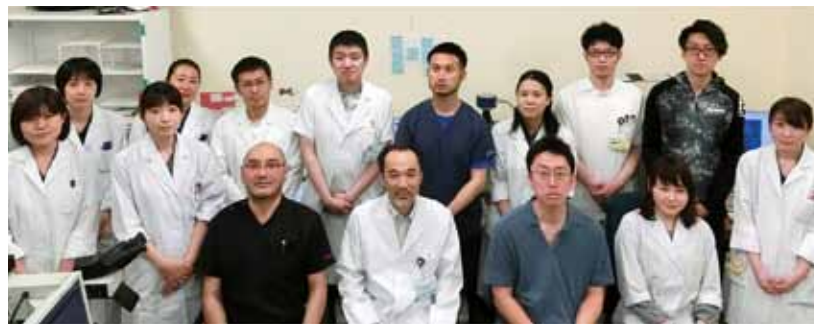
- ① 肉眼観察法や標本切り出し法
- ② 病理診断を行うための所見の取り方
- ③ 論理的な病理診断法
- ④ 病理診断のための様々な手法の基本を研修します。

2 年目；上記の事項を各自が自ら考え、一人で行えるようになることを目指します。

3 年目；経験した症例を、自ら、臨床カンファレンスや学会等で発表し、さらに医学誌への発表を行います。

的な病理診断法の習得に主眼を置き、若い先生方が病理医としてより早く自立できるような魅力的な研修プログラムを構築しています。病理診断学の中の専門性についても、当初は偏った臓器ではなく、全身の幅広い分野の病理診断を経験していただき、その中から各専攻医の先生が興味を持たれた分野を専門にされるような指導を行っています。

確かに病理診断学は、細胞組織から疾患を考えるという学問であることや、また、患者と接しないことなど、他の臨床科と異なった特殊性があります。しかしながら、これらの特殊性は、常にアカデミックな視点から疾病を考えることに純化できたり、生活設計を考える上で自由な時間を得るというメリットでもあります。是非、一度、病理診断科に遊びに来て、自由でかつ活発な病理医の日々を体験してください。



### 教室内症例検討会

診断が困難な症例、希な症例、教育的症例などを対象したカンファレンスです。毎日行われており、研修医を含めた参加者が自由に、かつ活発に議論できる場となっています。細胞診の症例では細胞検査士も参加しています。

## 当科で取得可能な専門医と指導体制

研修施設	病理専門医	細胞診専門医
和歌山県立医科大学附属病院	4	4
日本赤十字社和歌山医療センター	2	2
和歌山ろうさい病院	2	1
紀南病院	1	1
海南医療センター	1	1
橋本市民病院	1	1
公立那賀病院	0	0
近畿中央胸部疾患センター	1	1
がん研究会がん研究所	8	8